



だたら

第 18 号
(2022年1月発行)
島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
http://oushimaned.main.jp
E-mail:
mado@oushimaned.main.jp



飯南町頓原地区を練り歩く囃子らの行列

(写真・文提供 森勝男氏)

新年に相応しい明るい画像が無く、少しでも賑わいのある画像を森勝男さんの「まめですか」から探した結果、古い画像があり華やかで少しでも明るい兆しと思い、転載の了解を頂き転用させていただきました。

島根県飯南町の由来(ゆき)八幡宮で実りの秋に感謝する「頭屋(とうや)祭行事」が、2018年11月7日に行われました。飯南町頓原の由来八幡宮に伝わる「頭屋祭行事」は、例祭として毎年7日に行われます。浴衣や花笠姿の囃子(はやしこ)や、みこしを担いだ住民らの行列が、笛や太鼓に合わせ街中から八幡宮まで、約2kmをにぎやかに練り歩き今年の豊作を祝ったのです。

神事は、室町時代から約500年に渡って穀霊神幸を継承しており、県無形民俗文化財に指定されています。「注連下ろし祭」からはじまり「頭屋祭」「神幸式」「姫之飯(ひめのえ)神事」「頭渡し神事」にいたる穀霊信仰に基づく一連の特

殊神事です。

行列が八幡宮に到着すると拝殿で行われる「姫之飯神事」は、神職が巫女に扮し竹に稲穂を掛けて舞う姿が、古代における「田の神出現」の様子を具現しているとして全国的にも珍しいと言われています。

祭りを担当する頭屋は、頓原地区内の3地区が毎年持ち回りです。

由来八幡宮は1185年、源頼朝が安堵状を出し神像8体を彫らせ、8別宮に納めさせたと伝えられる出雲8所八幡の1社です。

新年のご挨拶を申し上げます

2022年 元旦

役員一同

マスクのない生活を願っています



所長 田坂郁夫

新年あけましておめでとう
ございます。本年もよろ
しく願います。

一昨年暮れに中国・武漢
で始まったとされるコロナ

感染症の流行も3年目を迎えました。幸い日本
ではワクチン接種が比較的順調に進んだため
か、10月以降新規感染者数が減少してしま
いますが、諸外国では新型株によるものも含め単発的
な流行が続いています。

日本でも再流行の可能性がないわけではな
く、しばらくはマスク生活が続くんだろうなと
思っています。とは言え、元々マスクをする習
慣のなかった私は一日も早くマスク無しの生
活に戻りたいと願っています。

そんな中、コロナの流行が収束したり、ワク
チンや治療薬の開発・普及によりコロナがイン
フルエンザ並みになった後も、マスク生活を続
けたいと考えている人がかなりの割合でいる
と聞きました。いわく、マスク無しの口元を見
られるのが恥ずかしい、特に、この2年間に知
り合った方にマスク無しの顔を始めて見せた
ときの反応が怖いということらしいです。その
方たちは、マスクを「顔パンツ」と呼び、見せ
てはいけないものを隠す必需品と考えるそう
です。

ある心理学者関連のHPによると、人は目、
鼻、口、輪郭といった各部位のバランスの良い
顔を美しいと認識するとのことで、マスクをし
ていれば、美醜を判断する部品が減りますので、
その分印象が良くなりやすいそうです。この説
を採るなら、自分の印象をよく保っておきたい、
悪い印象を与えたくないという考えから、なる
べく隠すということなのでしょう。なんかマイ
ナス思考に陥りがちな日本の現状を見ている
ようで、寂しくなってしまう。

最後に、すでにご承知のことと思いますが、
来年度第1学期から単位認定試験の解答方式

が大きく変わります。島根学習センターでは、
自宅にインターネット環境がない方、PC操作
に不慣れな方向けの講習会を開催する予定で
す。日程、申し込み方法などは「機関誌だんだ
ん」でご案内しますので、受講希望の方は申し
込みを忘れないように願います。

岸田総理から新年とんだお年玉

高齢者医療費2割負担のプレゼント

会長 竹下靖彦

あけましておめでとうご
ざいます。

毎年ながら新しい年号を
迎える度に、本当にそう思え
るのか自問自答の中、出会う
人に対しては平然と挨拶を

している念頭行事です。

以前会報“たたら”第8号(2017年1月号)
で高齢者をターゲットにした医療費自己負担引
き上げに憤りを表明していましたが、国民の声を
聴くとして登場した岸田首相は、昨年6月に菅内
閣が自民・公明与党と維新、国民民主の各党など
が成立させた「高齢者医療費2倍化法」(改定高齢
者医療確保法など)を受けて、今年10月より75
歳以上の後期高齢者の窓口(薬局でも)負担に2
割負担を導入する。まさに自民党の常とう手段
「選挙が終われば負担増の本性をむき出す」こと
です。

高齢者は幾つもの病気を抱え、転倒などの怪我
のリスクが高く、年金の切り下げの中、2割負担
増は生存権の侵害ではないだろうか。

思い返せば、私は昨年の総選挙では政権交代が
あると期待していたが残念な結果でした。日本国
民は、痛みを痛みと感ずることのない「壊死状態」
に陥ってしまったのだろうか？

岸田内閣の次なるターゲットは、憲法改悪に
よって軍拡を一層拡大し、まさに戦争をする国
へと変貌しようとしている事態にも国民はスル
ーするのであろうか。

新年早々苦いお屠蘇を頂きながら、テレビの
画面に向いばやく事しきりの日々です。

令和3年度1学期

学位記授与式が行われました



学位記を授与された皆さん

令和3年度第1学期学位記授与式が、9月26日(日)午前11時から島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第1学期は教養学部13名が卒業され、本授与式には5名が出席されました。最初に田坂島根学習センター所長より学位記が卒業生修了生お一人おひとりに手渡されました。

田坂所長祝辞

田坂島根学習センター所長から次のような祝辞がありました。「こ



この度卒業された方を見ると本学の特色である複数コースで学ばれた方、また最初から卒業を目指して全科履修生として、また短期大学・専門学校から編入学された方、科目履修・専科履修生から移られた方など始める形は様々です。学びの期間も2年間、また20数年かけられた方もおられます。このような多様性は放送大学の特色のひとつです。放送大学の学習は時間的、空間的に自由で、一人ひとりそれぞれの生活に合わせて学ぶことができますが、しかし、それは一人ひとりが自覚をもって学ぶことで、その継続には強い意思が必要です。本日は皆様が卒業を迎えられたことは長年にわたり自覚と意思を持ち学習を続けられた

証でありそのことに敬意を表し、お祝いを申し上げます。

放送大学で学ばれたみなさんの確かな知識と多様な学力は、不安定な社会で進むべき道を示す道標となるし、足元を照らす光になると思います。将来を見通しにくい状況が今しばらく続くと思います。放送大学で培った自分自身の力を信じて歩いていただけたらと思います。皆様にはその事をお伝えして、お祝いの言葉とさせていただきます。

同窓会長の来賓祝辞

来賓を代表して放送大学島根同窓会竹下会長より卒業された皆様



以下のお祝い挨拶がありました。「放送大学で高等教育を学ばれ社会的使命を果たすため、これから様々な場所で活躍されると思いますが、同窓会という組織を通じて日頃私が感じていることを少し斜めに見ながら述べます。今日、新型コロナウイルスのパンデミックで多くの命が奪われた上に、医療逼迫により本来助かる命も助からなかった。日本も例外ではなく政府の無為無策により都市だけではなく全国に蔓延している。この1年9か月にわたる度重なる緊急事態宣言等、同じ過ちを繰り返している。内閣は政権を投げ出し、臨時国会も開かず、総理総裁選挙の権力闘争に明け暮れている状況である。マスコミは連日それをただ垂れ流している。こういう状況のなかで私自身が感銘を受けた本があります。

それは、小関悠一郎著の米沢藩9代藩主上杉鷹山「富国安民」の政治という本で、それを紹介したい。これは窮乏する米沢藩を立て直した上杉鷹山について。江戸時代屈指の「明君」として知られる彼が目指したのは、何のため、誰のための政治だったのか。改革を担った家臣たちの思想と行動、また鷹山名君像の形成

を新たな角度から描き出し、その改革を日本の歴史に位置づけたものである。そのなかに、彼が読んだ和歌「受けつぎて国の司の身となれば忘るまじきは民の父母」というものがあり、民の父母とは中国の詩経あるいは孟子であるが、民とはこのように慈しんで政治を行う者、君子の理想の像すなわち名君と重なる言葉です。名君に育ったのは江戸家老らの教育によるところが大であり、またそれを実践したのが他の藩主と違うところでは。



卒業生代表挨拶

だが今日の政権は権力闘争に明け暮れており、果たして民を慈しんでいるでしょうか。ぜひ政治に関心をもって弱者の視点から社会情勢を俯瞰し、ご自身で判断を頂きたいと願っています。

本日はお手元に資料を準備しておりますので、ぜひ島根同窓会に入会していただき放送大学の発展と卒業後の繋がりを育むため、皆様のご参加をお願いしてお祝いの挨拶とさせていただきます。(石川直樹記)

第2学期卒業を祝う会を開催



参加された卒業生の皆さん

石川副会長開催挨拶

皆さまのご卒業に際し、同窓会としてお祝いをしたいと本日の会を開催しました。ご協力を頂きご参加されました卒業生の皆さまありがとうございます。コロナ禍にあつて人数制限がある中、先輩の同窓会役員と会員の皆さんもお祝いに参加しています。

島根同窓会は2013年(平成25)に設立し、目的として卒業生の親睦と放送大学の発展、

地域活動の推進に取り組んでいます。現在会は73人と少ない同窓会ですが、9年目の活動に取り組んでいます。是非同窓会にご参加いただき共に活動に頂ければ幸いです。

私は3回目のコース履修中ですが、この間学習方法が変わってきた中でのご卒業です。本日は食事をしながら皆さんの卒業に至るお話をお聞きし、ご要望などを承りますのでよろしくお願いします。

竹下会長挨拶

島根大学との単位互換制度を利用して、学びましたゼミの先生から「高等教育を学んでいる学生として、単純に政府の数字を鵜呑みにせず、自ら検証して判断することに徹してほしい」と言われ、可能な限り自ら判断することにしています。是非とも皆さんにも実践してほしい。私個人的にはコロナ禍にあつて、まさに経済が大切なのか、生命を守ることが大切なのか問われている状況です。私も学生として学んでおりますが、皆さんにも引き続き次のステップへと挑戦して頂きたい。同時に地域での活動として放送大学の素晴らしさや、安価で高等教育を学べることを大いに宣伝頂き、学生の増大にご尽力いただきたい。

田坂所長挨拶

卒業生の皆さまには改めてお祝いを申し上げます。同窓会の皆さまにはこの会を開いて頂きありがとうございます。この2年間は学び方やテストの方法が従来から大きく制約される中で、いろいろとご苦労があったと思いますが、乗り越えて本日に至ったことに敬意を表する次第です。卒業後は引き続き次のコースや修士に向けて学びを継続していただきたい。

藤嶋学友会長

この度のご卒業おめでとうございます。2回目に挑戦していますが、かなりモチベーションを高め続ける苦労は大変だと思います。自宅中心の学生生活で、それを何年もかけて克服されたことに敬意を表します。再入学され

る場合は是非学友会にご入会下さい。

卒業生の皆さまから

Fさん：平成9年選科履修生から初めまして、1学期に1科目の履修でしたのが、70数単位を超えたら職員から卒業されたらどうですかと勧められ、それから8年かかり都合24年かかりました。特に歴史とか土器とかに興味があるのですが、面接授業では少なくとも残念です。

この度再入学したのですが4年で16単位なので取り組みたい。要望ですが、面接授業のテーマはどうやって決まるのか知りたい。特に土器の三角縁神獣鏡について知りたいのでよろしくお願いします。

Tさん：職場で放送大学のパンフレットを良く観ていましたので、自宅でT



Vを観ていたら特別授業の案内があり、面白そうだなと思い退職したら入学したいと考えていましたので、平成23年に定年より少し5年前に退職し、入学しました。

自分がどれくらいできるのか、大学の内容が分からなかったのが、取り敢えず科目生で1科目を自宅ではなくセンターの視聴覚室のみで学習でしたので、集中して学習できました。3年目から少し自信ができましたので選科生となり、職員から卒業をされませんかとお誘いを得て、だんだんの学位記授与式の写真を見て私もやるぞと思い、平成29年全科生で入学しました。印象に残っているのは面接授業で、先生から直接生の声で情熱を持った講義を受け、緊張感を持って受講できたことです。土日で1単位でしたが魅力を感じました。今後は都合があり、来年4月から再入学を考えています。9月以降時間があれば聴講生として、学びたいと考えています。

Hさん：4人の子どもがいて今3人が大学生でして、今年の4月に1人卒業し、修士へ進みました。私は子どもより早く卒業したかったのですが、残念ながら遅れました。理由はコロナ禍での面接授業の単位が不足していました。地域の子どもの野球チームの監督なので、どうしても土日は試合や大会などがあるため受講できませんでした。ところが2つのチームが1つになったので、監督を辞めて面接授業に集中することが出来て、今日を迎えました。子供の教育費がかかり、まだまだ気が休まることができないが、放送大学は授業料が安いのですが、妻からはブツブツ言われながらも続けています。

先輩の皆さんからお祝い

・2003年からここに通いだして18年になります。現在4コース目になりますが、卒業もさることながら良い友達が出来たことです。特にわが家の庭の苔貼りや表土の黒ボク採取に取組み、趣味の会となっていて充実した日々を仲間と過しています。

・昨年6コースをクリアして名誉学生の称号を受けました。定年間際にこれから何をするか考えていた時に、放送大学を知り迷わず入学しました。今では生活の中で重要な柱の一つです。更に学生生活を続ける中で、多くの友達や先輩と巡り会えたこと、面接授業を通じて県外の学生と交流できて財産となりました。現在は選科生として興味ある科目を履修しています。

・県境を越えて島根学習センターに通っています。職場を退職後に放送大学に入学しました。現在4コース目ですが目標は名誉学生を目指しています。単位取得が中々難しくなりつつあります。ですが良かったことはセンターに通って友達が出来たことです。ただコロナ禍にあつて面接授業に参加できないことが残念です。

・卒業して約8年が経過しました。本日は皆様のご卒業をお祝いしたくて参加しまし

た。私は卒業した折に会長さんから誘われて同窓会に入会しました。8年が過ぎててもいろいろな行事に参加でき、皆さんとお会い出来るので同窓会は良いものだと思っています。是非同窓会にご入会下さい。

・何年前に入学し、何年前に卒業したのか忘れてしまう位年数が経過しましたが、同窓会を通じて放送大学と縁が続いています。専門大学卒でしたのでどうしても正規の大学卒業が欲しくて職業柄「生活と福祉コース」に入学し、直結した科目を重点的に履修しました。卒業後他の大学の修士に入学しましたが、何か物足りなくて放送大学の大学院に入学しましたが、単位数は修了しましたが修士論文が千葉まで通わなければならず、孫の世話に追われていましたので断念しました。現在再入学して挑戦していますが、16単位取得が難しくなりつつあるのですが、もうひと踏ん張りして卒業したいと思っています。放送大学を通じて一番楽しかったのは面接授業でした。特に徳島や高知は看護や福祉に関する科目が多くて出向いて、他県の学生と交流が出来たことです。島根は少ないので少し不満です。

・平成26年に「人間と文化」、令和2年に「社会と産業」を卒業し、3コース目の「生活と福祉」に挑戦中です。島根は距離が長いので、私は中部地方ですが面接授業では前泊が必要となり、西部地方からの面接授業では中々大変な状況です。セミナーなどにも参加をしたくても松江が中心なのでいろいろと制約があります。現在毎月1回第2土曜日に元所長足立先生のご指導で「作文の時間」を開いていますので、興味のある方は一度お出かけ下さい。

・私は1回目の卒業でして、履修中も孫の子守中でしたので、放送授業は車の中で聞いていましたので、皆さんのように何の科目を受けたのか自覚がありません。卒業後は孫の子育てから経験から、夏休みやコロナ禍で子どもが自宅で過ごしているため、地域で子どもの居場所づくりに取り組んでいます。そのために子供向けの本を必要としていて、皆さんの協力頂けたらと考えています。

センター開設25周年記念 名誉学生表彰式・記念講演会



島根学習センターは平成8(1996)10月、地域学生センター学生受け入れを開始し、本年開設25周年を迎えました。

開設20周年は岡部学長はじめとして、関係機関からのご来賓をお招きして、華々しい催しとなりました(詳細は記念誌発行済)。

今回の25周年行事は、コロナ禍のため県外からのご来賓は招かず、学長の25周年のお祝いと歴代の関係者に対する感謝がビデオによる挨拶、県教育長による祝辞があり、小規模な記念行事となりました。

第1部

名誉学生表彰式の創設



左から受賞者：木下、竹下、下垣さん

記念講演会に先立ちご来賓の島根県教育長列席のもとで、表彰式が執り行われました。

制度創設の趣旨について田坂所長は、挨拶で放送大学は、テレビ・ラジオあるいはイン

ターネットを通じて一人で学ぶことが主体の放送大学では、学びたいという強い意思とそれを継続する努力がなければ一回の卒業すら困難であると思います。

6つのコースを終えるためには最短でも14年間学び続けることが必要です。204単位すなわち100科目以上の科目を受講し試験に合格することになります。放送大学では6つのコースすべてを卒業された方を名誉学生の称号を与えて表彰してきましたが、島根学習センター独自の表彰制度はありませんでした。

しかし、14年以上の長い間学び続けられたその努力と、それによって身に付けられた様々な知識、高い見識を考えたとき学習センターとしても表彰すべきと考え、今回島根学習センター開設25周年を記念して所長表彰制度を制定することにしました。

「本日は第1回目として、開設以来の名誉学生5名の方を表彰します。同時に銘板に記載し所内に掲示してその栄誉を末永く残します」と制度創設の趣旨を述べられた。



表彰状を授与される木下さん



授与者を代表し謝辞を述べる竹下さん

今回受賞を受けられた皆さんです。

平塚純一様：平成27(2015)年9月

小汀政徳様：平成30(2018)年3月

木下知義様：平成31(2019)年3月

竹下孝子様：令和元(2019)年9月

下垣正徳様：令和2(2020)年9月



関係者による記念写真



所内に掲示される銘板

第2部

記念講演

演題 東洋思想研究の世界的権威

「中村元と松江」

講師 清水谷善暁氏

(中村記念館理事・清水寺執事長)



記念講演の清水谷氏

初めに中村元先生のプロフィールについて紹介があり、松江での誕生とその後東京での小学校、中学校、高校、東京大学で印度哲学を学び、博士号学位論文「初期ヴェーダ哲学史」をまとめる中で、『東洋人の思惟方法』(全2巻)を発刊され世界諸国言語で翻訳された。



会場風景

特に中国、チベット、日本について普遍的説教としての仏教がどのような特殊な仕方でも受容されたのか、つまり、各民族の思惟方法の差異によって、それがどのように変容されたのかを問題としたこと。その後、『ヴェーダ哲学史』(全4巻・4部作)を刊行。

東方学院の設立は、大学に吹き荒れていた学園紛争により学術的に減退傾向にあり、学術的精神的な拠点となる学院を作り、心理探求を目的とする学問本来の姿を回復するために設立した。

また世界の哲学宗教思想史では、地球全体にわたる思想の役立ち、人類は一つであるとの理念を確立し、数多くの書籍を刊行した。

地区会員の近況報告 (東部地域 4)

卒業後の私

松江市 青山賀代子

2年前に心理と教育コースを卒業しました。

興味のある科目をたくさん履修したものの、身に付いたと言えないのが悩み。

図書館で本を借りたり、だんだんセミナー「心理学から見える日常生活の面白さ、私たちの面白さ」に出席しています。セミナーは卒業生や一般の方など、様々な年齢の学友がいます。上下関係がなく和気あいあいとした雰囲気。貴重な場です。

最近読んで興味深かった本を紹介します。

「同調圧力 日本社会はなぜ息苦しいのか」・・・世間の空気を読み過ぎると息苦しい。家父長制度で、子どもは親の所有という考え方になりやすいこと。複数の世間やグループとゆるく繋がることなどを勧めています。

心理学の基礎を学んで、自分を含めた人間理解はある程度進んだものの、「人は感情の生き物」なのは日々実感しています。

最後に、心理学者フロムの言葉を。

人生とは、感情的なフラストレーションとの闘い。常に、個人的な本性—独立の存在としての自らの実存—と、他者と結びつきたいという欲求の間で揺れ動いている。

卒業後の私

～学びを楽しく続ける～

松江市 佐藤 玲子



私は教養学部の「生活と福祉コース」と「教育と心理コース」を卒業しました。

「生活と福祉コース」は、看護師・保健師資格を持っているので仕事に活かすために復習も兼ねて学び直した形です。

障がいやリハビリテーション、地域福祉などは新しい情報を得て、経験を理論的に整理できたし、学んだことを後輩の指導に活かすこともできました。

臨床心理士資格が取りたいと大学院へも挑戦しました。専科履修生として必須科目の単位を取得しましたが、全科履修生になる前に断念しました。理由はコロナ関連などいろいろありましたが、今は即戦力として活かせるようにヘルスカウンセリングを放送大学以外で学んでいます。

この療法は自身のレジリエンス(復元力)を高めるカウンセリング療法です。自分の気質を知り、その気質を活かしてストレスを乗り切る療法で、きっかけはこのカウンセリングに自分自身が助けてもらったことでした。この療法の「自身に降りかかってくるストレス

状況は、自分を成長に導いてくれるために起こってくることで、これを機に自分を見つめ直し生き方を学んでいく」と考えるところが好きです。

今までの考え方を必要もあり迷いも大きかったのですが、放送大学で学んだことが役立っていて、心理学特有の歴史や考え方、感じ方などに共通性もあると感じています。

上位の資格まで到達するのは難しいと思いますが、学ぶことに意義があると思って挑戦し続けるつもりです。

放送大学の方は、今は専科履修生として外国語を選択しています。

だんだんセミナーで英語講座に参加していましたが、昨年度末で終了したので放送大学で引き続き学んでいくことにしました。

年齢的に覚えも悪くなり時間はかかりますが、何かの形で放送大学と繋がりながら、学ぶことを楽しみこれからも学び続けていきたいと思っています。

卒業してからの生活

松江市 仙田 悦子



卒業してから2年ほどたちます。卒業したらいつもの通りに変わりなく淡々と過ごしたいと願っていた。卒業1年ほど前ぐらいから、

コース科目を進める事で精一杯で、その後の予定などはキレイに忘れてやっと卒業した後は、気持ちがたゆって(ゆるゆる)いました。

『テストが終わってから』、『卒業してから』と、後へ後へと後回しにして来た一大事を始めることにしました。世にいう断捨離です。

大変であろうことは想像してはいましたが気が折れそうでした。始めないと終わらないのです。お爺さんが大事にしてたであろう品物は、特に難題でした。それよりも難題が、セピア色に変色した祖父母の写真達で、時間が掛かります。何度も手がとまります。捨ててしま

っていいのかな?の思いで気持ちが沈みます。でもいいことを思い付き、法事の際に親類一同に



も見てもらって、欲しいものは無いことの確認をして、やっと処分できました

そして次です。祖父母の着物です。戦後に売らずに守り、手入れもして来たものを捨てるなんてことはとんでもないことですが、あまりにも多くあり、卒業という機会を得たので、決心できました。それも、形を変えて利用することで、気持ちに折合をつけました。写真処分とは違う意味で難題でした。でも、生地として使えるので、お宝となりました。楽しく利用しているので、着物の断捨離は終りとなりました。おかげさんで出来上がった作品に、お爺さんの“たんぜん”でこたつ布団があります。温かくとても気に入っています。

そしてもう一つ、始めたことがあります。以前に、科目でであった『モンテニューの塔』のミシエル・ト・モンテニューさんの話です。貴族を象徴するお城の挿絵が載っていて、ヨーロッパ貴族のお屋敷でした。離れにある塔の3階に本棚が壁一面にある挿絵は、ちょっとした図書館です。塔へ毎日通う読書生活。優れた作品を残した作家さんです。

本に囲まれた生活空間が好きだったのでしよう。そこでいいヒントを得ました。読書コーナー造りを始めています。3階の塔は感謝でした。空間造り。それだけで満足。やすらぎの空間です。小さなティテーブルに一人掛けソファで十分。科目で「モンテニューさんの出会いの『おかげ』」です。

卒業後は、やっとスローライフ生活をと望んでいましたが、プチリフォームの大工さん擬きをしています。何とも落ち着きのない生活がしばらく続きそうです。

変化（進化）



松江市 林 武史

人類は約 500～700 万年前
アフリカで誕生しました。変
化（進化）の過程で二足歩行を
始めたので、初期に持っていた
尻尾が変化してなくなり、その名残が尾骨
です。生物も変化している。今世界で猛威を振
るっている新型コロナウイルスもデルタ型、
オミクロン型と変化しており、これはウイル
スの生き残り戦略のようです。

世の中の技術がアナログからデジタルへ
の変化に追従できなかったのが、米国イー
ストマン・コダック社である。フィルム事業で圧
倒的シェアを有していたがため、変化に対応
できなかったのが倒産した。一方、日本で同業
の富士フィルムは、フィルムのほかに磁気テ
ープ、光学デバイス、ビデオテープ等の周辺部
への事業展開を行っている。現在は事務機、医
療機器、薬品まで事業領域を広げている。経営
者の判断の失敗が両社の明暗を分けた事例で
ある。

地球温暖化に伴う環境意識の高まりは、車
の電動化を加速させている。ご存知のように
本田宗一郎が創業した本田技研工業(以下ホ
ンダ)の事業変化を見てみたい。

ホンダは 1943 年に従業員 34 名で事業を開
始した。最初は自転車に取り付ける補助駆動
エンジンからスタートした。1953 年にオート
バイ世界最高峰レースのマン島 TT に参加し、
1961 年に 125 cc、250 cc クラスで 1 位から 5
位を独占した。1958 年にスーパーカブの販売
が開始され、2017 年 10 月に累計販売台数 1
億台を突破した。車への進出は 1963 年で最初
は軽トラック、のちにスポーツカーを販売し
た。その後車種も増やしていった。

車の最高峰レースは F1 ですが、ホンダは
1964 年に日本メーカーとして初めて参戦した。
ホンダの F1 活動は休止と再参戦を繰り返し
ている。一方空への憧れも強く、東大航空機学
科卒業の藤野道格は、1968 年米国に設立され

た秘密事業の航空機部門に異動になった。

苦節 20 年初飛行を終え 2006 年正式にホン
ダジェット機を製造販売することが、役員会
議で承認された。ホンダジェット機は 5 人乗
りのビジネスジェット機で主翼上面にエンジ
ンを搭載する従来の考え方と違うタイプのユ
ニークな構造をしている。

特徴は低燃費と速度アップ、騒音と振動の
軽減などである。さらにホンダは、宇宙事業に
参入しロケット開発を進めている。食欲に変
化を求めて進んでいるようである。

私も世の中の変化に対応するために、少し
ずつでも努力していきたいと思っている。

社会貢献活動に 取り組む会員探訪 ③

プラスチックごみを減らす活動！

松江市 北垣 幸久



くにびき学園事務局前にて

「社会貢献活動に取り組む会員探訪」は今回
3 回目となり、松江市において演劇活動を通
じて、環境保全の啓発運動に取り組んでお
られる「くにびきエコクラブ」の会長、北垣幸
久さんに竹下会長と知野見理事がインタビ
ューさせていただいた。

先ず演劇「プラごみの問題・海亀の涙」の大
まかなストーリー・内容を記しておきたい。

これは 2015 年の国連総会で採択された S
D G s（持続可能な開発目標）に在る 17 の目

標(“たたら”第15号で紹介済)のなかのゴール12(つくる責任・つかう責任)とゴール14(海の豊かさを守ろう)をメインテーマに設定した創作劇であり、インタビューの中で北垣さんも話されていたが、50年前には存在しなかったプラスチックごみというものが、地球環境を脅かすまでになっている現状を劇にされたものである。そしてそのストーリーというのは次の様なものである。

「商店街の勉強会との設定で、環境問題に詳しい教授役の男性が商店街の住民に扮した人たちに「今、世界中で問題になっているのが使い捨てのプラスチックごみ・・・」と説明している。スーパーの店主が孫と一緒に、プラスチックごみが海を汚している現状を学び、レジ袋有料化などの活動を試みていくストーリー」(2019年9月26日朝日新聞に載った、「くびきエコクラブ」紹介記事より)

6月17日、松江市東津田町にある「いきいきプラザ島根」の4階で、私たちが到着するのを既にお待ちいただいていた北垣さんにお逢いし、早速取材に応じていただいた。

—放送大学へのご入学は何時でしたか。

北垣—平成22年4月に選科履修生として放送大学へ入学しました。現役退職1～2年前に、小川洋子著『博士の愛した数式』という本を読んだ中に「世界一美しい数式」と言われる「オイラーの等式： $e^{i\pi}+1=0$ 」がありました。数学については、高校生時代「三角関数と指数関数」で挫折した経験がありましたが、この「世界一美しい数式」を見極めてみたいと思ったのが一番の入学動機でした。

それと、私が現役大学生の頃は70年安保などに絡む学園紛争が多発していた時代でしたので、3、4年時には授業にもあまり行けず、卒業式も無かったため一度大学の卒業式というものを味わってみたいという気持ちも入学動機の一つでした。

最初に受講した数学(基礎)科目は「数学再入門」(長岡亮介著)で、扱う内容は、中学・高校レベルとなっていました。理解できない箇



所が多々あり、NHK 高校講座「数学Ⅰ・Ⅱ」を平行受講し、何とか単位を得た喜びが大きかったことを覚えています。翌年、全科履修生として「自然と環境コース」へ入学、現在に至ります。

—それでは北垣さんは学士入学でしたか？

北垣—一応3年次入学としましたが、専門科目を理解するためには、もう一度基礎科目から学ばないとダメだと思い、結局卒業に必要な124単位近くを学習したように思います。

—凡そ「〇〇入門」というのは、テーマとは違って結構難しいですね。「入門」という言葉に惑わされますね。

北垣—数学の学びの中には「美しい」という言葉がたくさん出てきます。『博士の愛した数式』の作者小川洋子さんと数学者藤原正彦さんの対談の中では「実は数学において複雑な数学的現象を一行の数式でピッと統制する美しさと、大自然を五七五という最小の言葉で表現する俳句とは、非常に近いものがありますね」と、藤原正彦さんはいっています。

—北垣さんは同窓会誌「たたら」15号のなかで、「放送大学では自然と環境、社会と産業、情報の各コースを卒業・・・ボランティア活動に携わるには熱い情熱と学問的な知識が必要。放送大学での学びは、その学問的な知識を与えてくれます」と書かれていますが・・・

北垣—確かに放送大学はボランティア活動に携わるに必要な「学問的な知識」を与えてくれます。今までは社会的経験だけでなんとかやって来ましたが、現在学んでいる「人間と文化のコース」は未知の領域も多く、卒業までには時間がかかると思っています。

—最初に学ばれたのが、エコについての関



心から「自然と環境」ですね。そういう点では「エコクラブ」の活動には大いに役立ったということですね。会長が山口さんの時に貴方は副会長でしたか？

北垣—末席の一役員からいきなり社長をヤレと言われた様なもので、悩みながら、会長になってから5年目に入ります。「後継者を育てて一人前」という言葉があります。後任を早く決めて「オイラーの等式」をもう一度一から学習してみたいと思っています。

北垣—先日テレビの取材を収めたビデオがありますので、観ていただけますか。(此処で約5分間、今年5月30日「ごみゼロの日」に合わせて、野波海岸漂着ゴミ回収活動の様子などを収めたビデオを見せてもらった。海岸に漂着したごみと、回収活動によって集められた夥しいごみを見て、改めて「地球環境を脅かすプラスチックごみ」という言葉や、海亀がレジ袋を啜って泳いでいるチラシの写真が、本当に切実なものだとして浮かび上がり、蘇ってきた)。

—「有償ボランティア」というものがあるようですが、これについてはどうお考えでしょうか？ 広辞苑などではボランティアとは無償で参加する人と書いてあります。

北垣—劇の練習のために、出雲や安来から来る人もいて、交通費だけでも相当かかりますが、県からの助成金も設立後6年を過ぎましたので、もう受給できない現状です。会費と僅かな一部民間の助成金だけで運営しています。

—奉仕した見返りに対価を請求する。ましてや商売のように相手と交渉をする、すなわち「商談」となればそれは「ボランティア」ではないと思っていますけど。(此処で私が今学

期履修の『認知症と生きる』(生活と福祉コース・第7章3節)教科書に書かれている「有償ボランティア」について提示してお見せした)。

北垣—それについては私も異論がありますね。でもこちらから言うのではないのですが、相手の方から「薄謝」というような形でのお礼がある場合もあります。

—相手の方から、そういう気持ちでのことなら私も理解できます。(北垣さんは厚労省が考える「ボランティア」についての見解を、用意して来られた資料を出され説明をされた)。

北垣—ここには有償ボランティアというものも認めてありますが、ボランティアについての一般的な定義として「自主性(主体性)・社会性(連帯性)・無償性(無給性)」というのがあげられています。



—ボランティア精神を大切にして、軽い気持ちで社会貢献をやろうという気持ちでなければできないことですね。

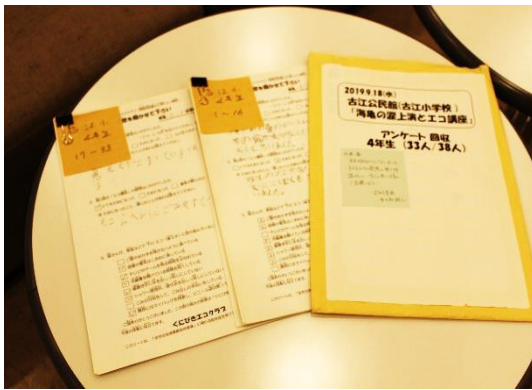
北垣—例えば私達がこうした活動をするのに、いきいきプラザの建物を無償で使わせてもらえるのは、ボランティア活動を無償で継続することが条件になっています。

—出雲市では「ボランティア協議会」というのが旧体育館の中に事務所がありました。ところで会員の会費は幾らですか。

北垣—年間3千円です。

—演劇の稽古、練習は何時何処でやっておられますか。また放送大学の勉強時間との兼ね合いはどうしておられますか。

北垣—この書類に我々クラブの立ち上がった経緯等を書いていきますのでご覧ください。



我々の活動の元気の源は子ども達ですね。子ども達にアンケートをとると、本当に素直にいろんなことを書いてくれます。(北垣さんはそう言って「くにびきエコクラブ」設立のきっかけの資料、そして子ども達から寄せられ、それを綴じられたたくさんのアンケート結果資料を見せて話される。次に、北垣さんたちの活動の励みとなっているという朝日新聞紙上に載った、その一節を記す。「10年の活動の励みになっているのは劇を見る子ども達の存在です。劇の上演後に毎回アンケートをとり、感想をメンバーで読み合うのが一番の楽しみ。伝わっていないようであれば、すぐに簡単なセリフに変える。会長の北垣幸久さん(72)は『子どもたちは本当に純粋で、色んなことを感じてくれる。それで次もやろうと励みになる』と話す」2019年(令和元年)9月26日付・朝日新聞)

一演劇は「定例で稽古」をされておられるのですね。

北垣一公演の決まった、2週間前位からですね。練習会場確保が大変です。それから、昼間働いている人などもいて夜でないとできない。でも女性の方などはなかなか出難いということもあります。部屋としてはいきいきプラザの403研修室が広くて良いのですが、なかなか予約が取れなくて、練習時間は夕方5時半～8時半までの3時間です。

一それだけ忙しいのに、放送大学の勉強の時間の方はどうしておられますか。

北垣一勉強のやり方は不真面目でして・・・今は、通信指導問題と過去問しかやっていません。放送授業の聴取や教科書を開くとかは、

他の活動のためほとんどできていません。教科書のどの辺りに書いてあるか、そういうことを調べようとしてもなかなか掴めないの、教科書の索引欄を開きますが、入っている単語が少なく、特に人名が少ないですね。

一それから北垣さんが入学された当時というのは、通信指導の在り方はどうでしたか。

北垣一通信指導問題は試験の何週間か前に送られてきたように思います。最初の「自然と環境」の時はしっかりとやりましたが、ある時などはほとんど当てずっぽうで送ったこともありましたが、それでも本試験は受けることが出来ました。

一モチベーションの維持についてはどうしておられますか

北垣一モチベーションの維持は難しいですが、劇やエコ講座を鑑賞してくれた市民や子ども達の喜ぶ顔をエネルギーにして活動を継続しています。

一ご趣味とか座右の銘・座右の書・尊敬する人物・好きな言葉がありましたらお聞かせください。

北垣一特にこれというものはありませんが、そうありたいと思うのは、佐藤一斎^{げんししろうく}「言志四録」の中にある「少くして学べば^{わか}壯にして為すことあり。壯にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず」です。

尊敬する人物として、私は常に身近にいる人に恵まれていたように思っています。例えば高校生の頃の恩師、大学時代ではクラブ活動の顧問の助教授。社会人になってからは、仕事に行き詰まり、悩み転職を考えたことも何度かあったが、上司(島根県出身の元専務)の助言で41年に亘り努めあげることができました。

一ご趣味は？

北垣一趣味というほどのものは無いのですが、以前は無線(アマチュア無線)をしていて、雑音に混じって微かに聞こえてくる世界の日本語放送局や日本の民間放送局(47局)を受信し、報告書を出すことで送られてくる

カード(ベリカード)収集に夢中になったこともありましたが。

くにびき学園に入った2年目(平成24年)から、学友に誘われて「木彫彩色レリーフ」をやり始めました。(北垣さんは最近の作だという、何点かの木彫作品を見せてくださった。まるでそれは本物の魚を魚拓にしたような、木彫制作の魚だった)

—それでは最後に、卒業生に対するメッセージを伺いたく思います。

北垣—私たちの活動の中心である「プラスチックごみを減らそう!」にご理解をお願いします。

皆さんには生活パターンの更なる見直しをお願いします。例えば、「マイバッグ持参でレジ袋は貰わない、過剰包装も断る」「必要なものは必要な量だけ買う」「修理してくり返し使う」など、ちょっとした心掛けの積み重ねを皆で行うことにより大きな力になると信じて!

—本日はご多忙の中にも拘らず、ご協力頂き有り難うございました。

あらかじめ質問する内容等を、事前にお渡しをしていたことから、今回のインタビューについてのご自身の回答やら各種資料、アンケート結果などをキチンと揃えて、それを交えて話される、そんな北垣さんを取材しながら、「何事もおろそかにされない。几帳面で、そして何をされても完璧にやり遂げられる方」という印象を強く抱いた。

放送大学島根同窓会会則の第四条に謳ってある通りの、すなわち「・・・併せて島根学習センターの発展と地域・社会への貢献に寄与することを目的とする」その通りの活動を実践されている方だった。

今回北垣さんを取材させていただいて、私(知野見)は次のようなことを思い出した。

京都にある比叡山では十二年間、天台宗の開祖伝教大師が祀られている浄土院に籠り、一歩たりともそこから出ずに、命がけの修行をする「十二年籠山行」というのがある。

昭和45(1970)年にこの行を満行された中

野英賢師の書かれた『一隅を生きる』には次のようなことが書かれている。

「いかに尊い仏法であろうともそれを身をもって実践する人が無ければ無意味である。その法尊ければそれを実践する人もまた尊し、すなわち法は人なりである。」(『一隅を生きる』中野英賢著・白川書院)。

また最後にお伺いした「同窓会生に対するメッセージ」でも、プラスチックごみについて切々と訴えられていたのが、印象に残った。

お忙しい中、取材に応じて頂きました北垣さんには、改めてお礼申し上げます。

「くにびきエコクラブ」ではこうした活動とその実績に対して、数々の輝かしい表彰・受賞を受けておられます。主なものを此処に挙げてみます。

①平成26年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰(教育部門)

②平成28年度 JAしまね地域貢献・地域活性化活動表彰

③平成30年度(島根)県民いきいき活動奨励賞などなどです。また、ネットでもこうした活動を観ることができますので、同窓生の皆さんも是非、検索閲覧をしてみてください。

[https://www.shimane-](https://www.shimane-kiiki.jp/volunteer_groups/920)

[kiiki.jp/volunteer_groups/920](https://www.shimane-kiiki.jp/volunteer_groups/920)

島根いきいき広場くにびきエコクラブ

[https://www.youtube.com/watch?v=EerqXY](https://www.youtube.com/watch?v=EerqXYkDpuQ)

[kDpuQ](https://www.youtube.com/watch?v=EerqXYkDpuQ) 「海亀の涙」短縮版・Tubeで検索されたら、「くにびきエコクラブ」のweb上の情報が観られます

今回は琴野正義(浜田市)さんをお訪ねします。





私の書架散策

No. 1 1

松江市 安部保江



書籍名：『大空放哉』
 著者名：足立悦男
 出版社：今井出版



今井書店にて、『大空放哉』作者足立悦男を購入し、大切にゆっくりと読んだ。味わいながら読みたくなる本である。作者は放哉に、ほとばしるほどの愛着を持ちながら、いや、だからこそ淡々とした表現を用いて文章は進む。読む者にとっての感情移入が自由にできて、大変読みやすくそれでいてというか、それ故にというほうが正しいかもしれない。温かい涙が胸を浸し心にじんと応える。

登場人物の心低からの優しさと、若い編集者立原夕子の謙虚でいながら的を射た質問の仕方、そして共感する頷き、夕子を最後まで『大空放哉』の作者その人ではないか、と思いながら読んだ。

自由律俳句とは、そうだったのかと解かるような気持ちにもなった。

放哉も種田山頭火も、無になって生きる厳しさと優しさは、生きながらにして仏様であったのだと思う。この本をこれから読む人のためにこれくらいにして置きたい。

以上生意気なことを書いたが、この本の作者こそ、わが「作文の時間」に大変お世話になっている島根大学名誉教授足立悦男先生である。

私の書架散策の原稿募集中

～同窓会からのお知らせ～

◆同窓会の活動日誌◆

(2021年1月～6月)

【7月度】

- 1日(木) “たたら” 校正作業
- 16日(金) “たたら” 発送作業
- 24日(土) パソコン活用教室①

【8月度】

- 20日(金) 第4回役員会 (Zoom)
- 22日(日) パソコン活用教室②
- 28日(土) パソコン活用教室③
- 28日(日) 学位記授与式打合せ

【9月度】

- 3日(金) 学位記案内状発送
- 26日(日) 1学期学位記授与式
- 26日(日) 1学期卒業を祝う会加西

【10月度】

- 20日(水) ACA 自主学習会打合せ
- 3日(土) 第2回役員会
- 4日(日) 総会議案書印刷
- 5日(月) 総会関係資料発送
- 17日(土) 第9回通常総会開催

【11月度】

- 2日(火) センター25周年行事案内
- 10日(水) ACA 自主学習会セミナー
- 23日(火) 学習センター25周年行事
- 23日(火) 名誉学生所長表彰式

【12月度】

- 10日(金) “たたら” 18号編集作業
- 15日(水) 第4回広報部会 (Zoom)
- 18日(金) 第4回役員会 (Zoom)
- 20日(月) “たたら” 18号校正作業
- 26日(日) 連合会助成金説明会 (Zoom)

同窓会 当面の行事案内

2021年度卒業研究発表・市民公開講座開催のご案内

日時 2022年2月6日(日)15:00~15:30 (共催:島根同窓会)

会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」

内容 学士卒業研究発表・市民公開講座

※卒論完成を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

公開講座 13:30~15:00

演題 「ものづくりとケニア・モンゴルでの国際協力」

講師 田中久隆氏(放送大学鳥取学習センター所長)

2021年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2022年3月27日(日)11:00~12:00 (共催:島根同窓会)

会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」

対象者 2021年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん

※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2021年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2022年3月27日(日)12:00~13:00 (共催:島根学習センター)

会場 島根学習センター 4階 「第2講義室」(予定)

対象者 2021年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん

※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

島根同窓会第10期通常総会開催のご案内

日時 2022年4月17日(日)13:30~16:00 (共催:島根学習センター)

会場 学習センター 3階 「第1講義室」(予定)

議題 ①2021年度事業報告、②2021年度会計報告、③2022年度事業計画(案)、
④2022年度予算(案)、⑤その他

※当日は13:30より市民公開講座を開催します。詳細は後日ご案内します。

～編集後記～

今月号から経費削減のため、これまでの地元印刷会社に発注していましたが、ネット印刷会社に16ページフルカラー印刷をテストにてお願いしましたところ、素晴らしい出来栄と単価の軽減が図られるため変更します。但し、データ送付のため校正を誤りなく完成させる必要があります。広報部の責任重大です。校正漏れがあると思っておりますが何卒ご容赦下さい。(Y)